

情報発信の充実

1 地域に出向いた広報・広聴活動

(1) 第1回連携会議で示された取組の方向性

- ・地域に出向いた広報・広聴活動は従来から実施しているが、昨年の町村総会の報道以降、村政の関心を高める目的で、神祭や初会には集落に職員が赴き、村政に関する広報・広聴活動を行うなど取組を強化してきた。
- ・神祭や初会には概ね住民の7～8割程度が参加しており、その場で村民と双方向の議論を行うことで、幅広い村民に対してきめ細やかな情報発信・意見収集が可能であるため、村では、これらを有効な取組と認識しており、神祭等の機会を捉えて引き続き実施していく。

(2) 第1回連携会議以降の主な取組

取組内容	神祭	大川村防災講演会及び避難所運営訓練(HUG)
概要	・夏の7神祭のうち5神祭にのべ15名の職員参加、秋の5神祭にのべ11名の職員参加	・10月9日実施 ・40名参加
テーマ及び出席者からの意見	・村政のトピック等(会合に合わせた内容) ・防災訓練等についての情報提供・意見交換が行われた。参加者からは、もう少し参加しやすい仕組みを望むなどの意見があった。 ・情報基盤整備について、ブロードバンドを整備してほしいとの要望があった。	・防災講演会では、津波について情報発信、避難所運営のノウハウ提供等を行った。 ・出席者からは、災害時の避難所のトイレについて対策を講じてほしい等といった意見があった。

(3) 取組の成果

- ・神祭等の各種会合への参加率は依然として高く、かなりの割合の住民をカバーできており、生活環境や防災に関する身近なテーマ等について、住民からの意見や要望も以前より増えてきている。
- ・特に若い職員が中心になって地域に出向き、住民に知ってもらうことで、役場と住民との距離が近くなり、住民の声を直に聴くことができている。

(4) 今後の取組の方向性

- ・村の政策広報(特に住民のくらしに関連の深い政策の広報)や広聴を行っていくに当たっては、村民と直接対話できるこの方法が非常に有効であり、今後も村内の各種会合の機会を的確に捉え、実施していく。

情報発信の充実

2 地域に出向いた広報・広聴活動以外の手法

(1) 第1回連携会議で示された取組の方向性

- ・ 広報誌（議会だより）は、ページ数を増加させた上で、町村議会広報全国コンクール（全国町村議会議長会）の優良事例等を参考に、質問のやりとりだけではなく、議員が聴いた生の声の掲載や目を引くレイアウトへの変更等、内容の充実を図る。
- ・ チラシは、継続的に議会の仕組み、村政のトピック等を掲載し、随時発行していく。
- ・ 音声放送の充実については、村内のブロードバンド網整備にあわせたチャンネル増設の検討のほか、「政策議論の場」の事前告知等において議論のトピックの説明をするなど放送内容の工夫についても検討する。
- ・ ホームページやSNSについては、将来的に活用を検討する。

(2) 第1回連携会議以降の主な取組

(広報誌)

- ・ 6月の議会運営委員会において、協議を行い、議会に対する意見、議員活動等、取材及び写真は議員各自で収集し、村民が興味を持つ記事を掲載するよう議員全員で内容の確認等を行うこととした。
- ・ 今まで一般質問のみの掲載であったが、9月号より委員会報告についても掲載している。
- ・ 11月号では、議会に対する村民の意見を掲載した。現在も広報委員長が継続して取材中である。
- ・ 目につくレイアウトを取り入れるなどの意見もあったが、慣れ親しんだ形を急に变えるのは、村民が違和感を持つ可能性があるため、徐々に変更していく。

(チラシ)

- ・ 未発行。今後は、議会に関することに限らず、旬の情報を掲載した内容で随時発行することを検討中。

(音声放送)

- ・ 「政策議論の場」の事前告知等において、開催趣旨の説明とあわせて参加しやすい話題提供をするなど放送内容の工夫を行った。

(SNS)

- ・ 地域おこし協力隊がFBとInstagramでの情報発信を開始。

(3) 取組の成果

- ・ 広報誌の取材活動において、議員が住民に直接意見を聴くことによって、議会に対する住民の率直な意見が寄せられるなど、議会への関心が高まってきたものと考えられる。
- ・ 議員からも、取材活動の中で地域住民とのやりとりにより、改めて生の住民の声を聴くことができ有意義だったとの意見が出ている。
- ・ SNSでの情報発信については、FBのフォロワーが約630名となるなど、一定広報の効果が出てきている。

(3) 今後の取組の方向性

- ・ 村では、地域に出向いた広報・広聴活動を主力としながらも、中には、それらに参加しない・できない村民もいることや、開催回数が限られることから、広報誌等を用いた広報・広聴についても、引き続き充実を図る必要がある。村民の反応も見ながら、より良い手法について検討していく。